

八女市予約型乗合タクシー

「ふる里タクシー」



福岡県八女市

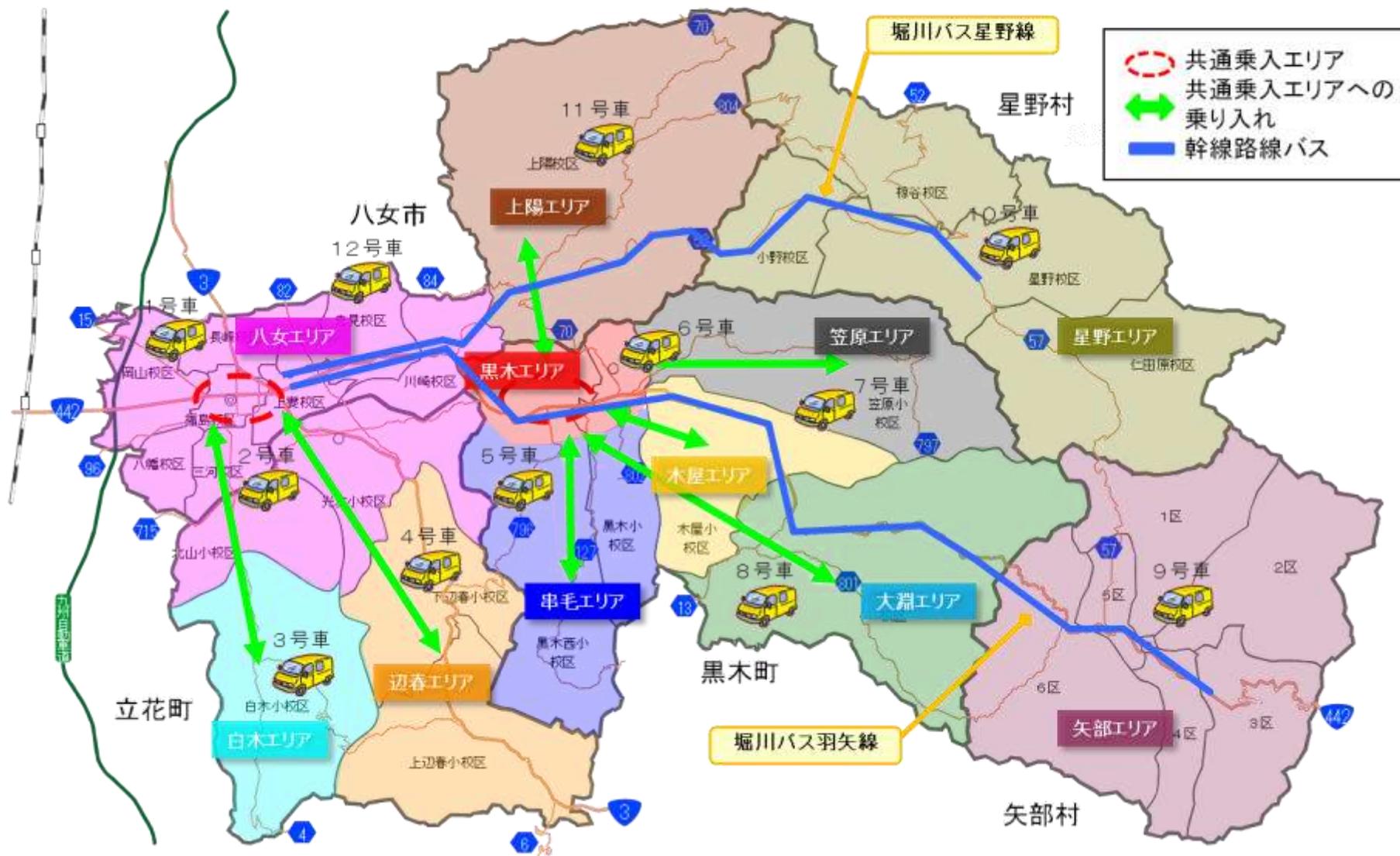
■ 八女市の概要

- 位置 福岡県南東部(熊本、大分との3県境)
- 合併 H18に1町、H22に2町2村を編入合併
- 面積 428.53km²(福岡県で2番目の面積)
- 地形 矢部川中流～源流の山間地域
- 産業 農業(茶、菊)伝統工芸(仏壇、提灯)
- 人口 69,057人(H22年国調)
- 高齢 高齢化率30.3%(H25年3月住基)
- 交通 民間路線バス8路線(鉄道はない)

■乗合タクシーの概要

- 運行開始 H22年1月(一部)※全域は同年12月
- エリア数 11エリア(旧市町村をベースに)
- 運行台数 12台(金曜のみ13台)10人乗ワゴン
- 運行日 平日のみ(土日、年末年始運休)
- 運行便数 8便(午前8,9,10,11時 午後1,2,3,4時)
- 予約受付 7時30分~16時30分 6人体制
- 登録者数 11,570人(人口の16.9%)※H25.3末
- 利用者数 年64,322人(262人/日)※H24年度
- 利用料金 1回の乗車につき300円
(一部区間については400円)

■運行エリア図

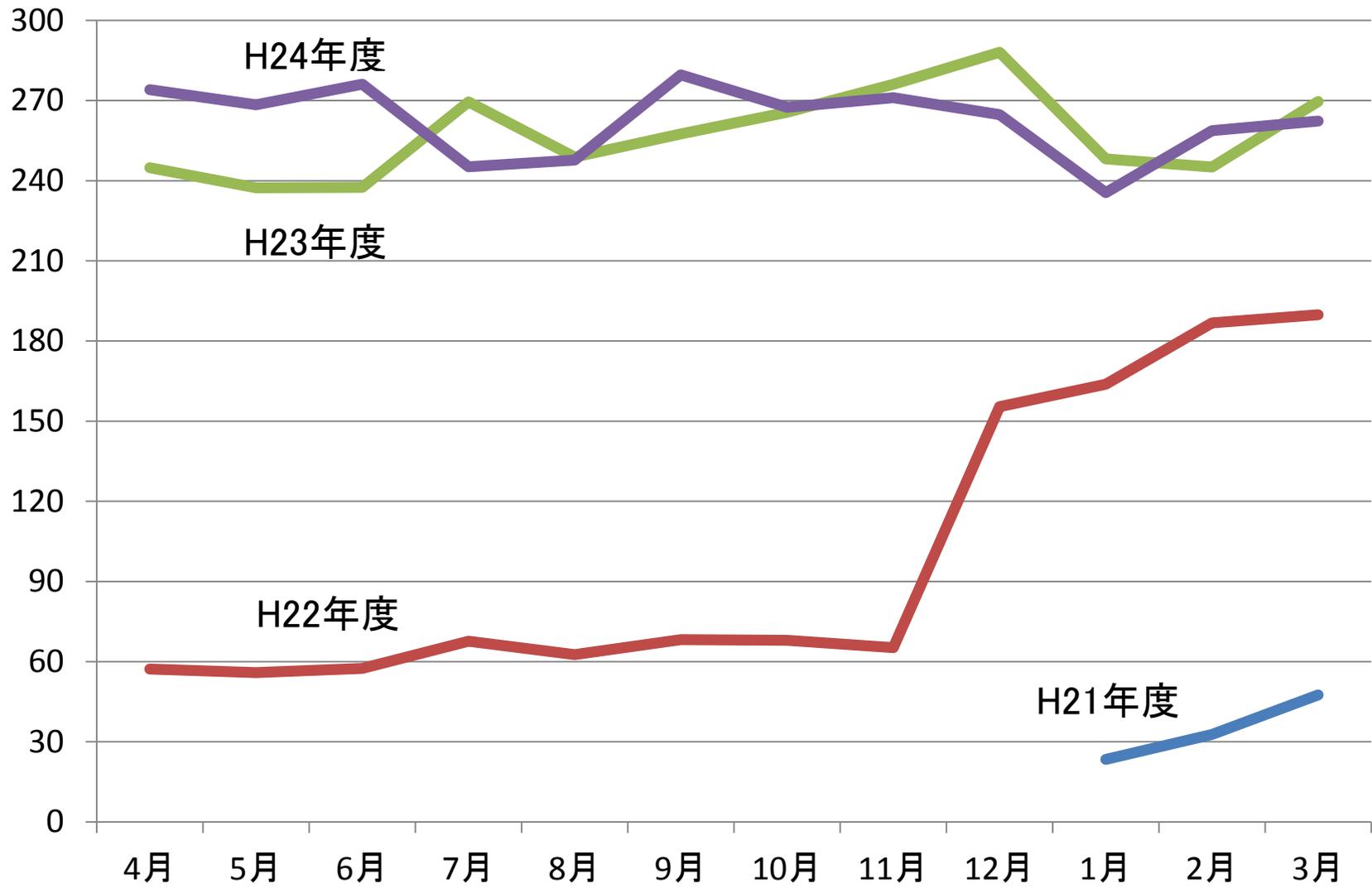


■ 運行実施のポイント

- 路線バスとの調整
幹線系統の確保⇒旧市町村間の移動は路線バス
運行重複を回避⇒フィーダー系統は朝夕に特化
- 交通政策の統一
合併前の市町村が実施していた、コミュニティバス等
(福祉バス、予約バス、患者輸送車)を全廃
- 旧市町村の交通対策費の予算枠内で実施
路線バス見直しやコミバス全廃で捻出した予算で導入
- エリアを設定し移動範囲を制限
コアな生活圏維持、バスとの調整、1時間1便確保
⇒旧市町村をベースに設定
※1時間1便確保のため、更に細分化したエリアも

1日平均利用者数の推移

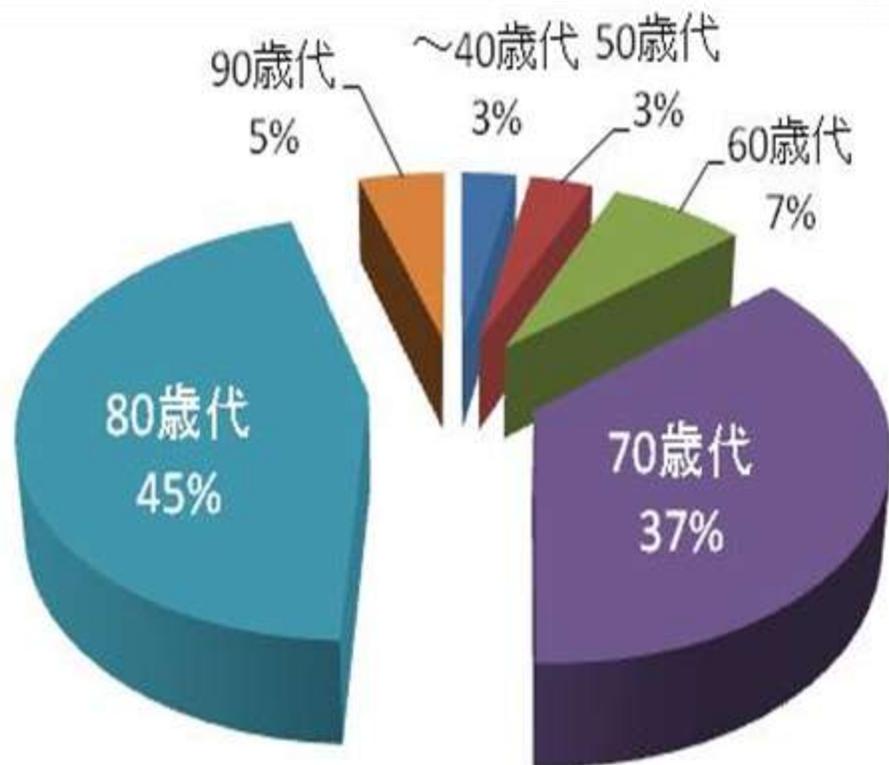
人



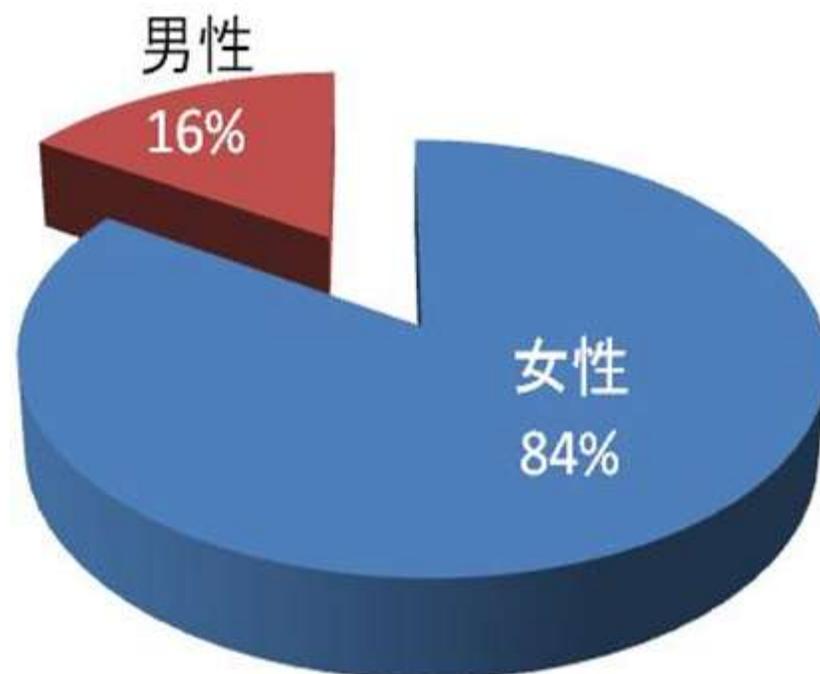
■利用者層

●年齢

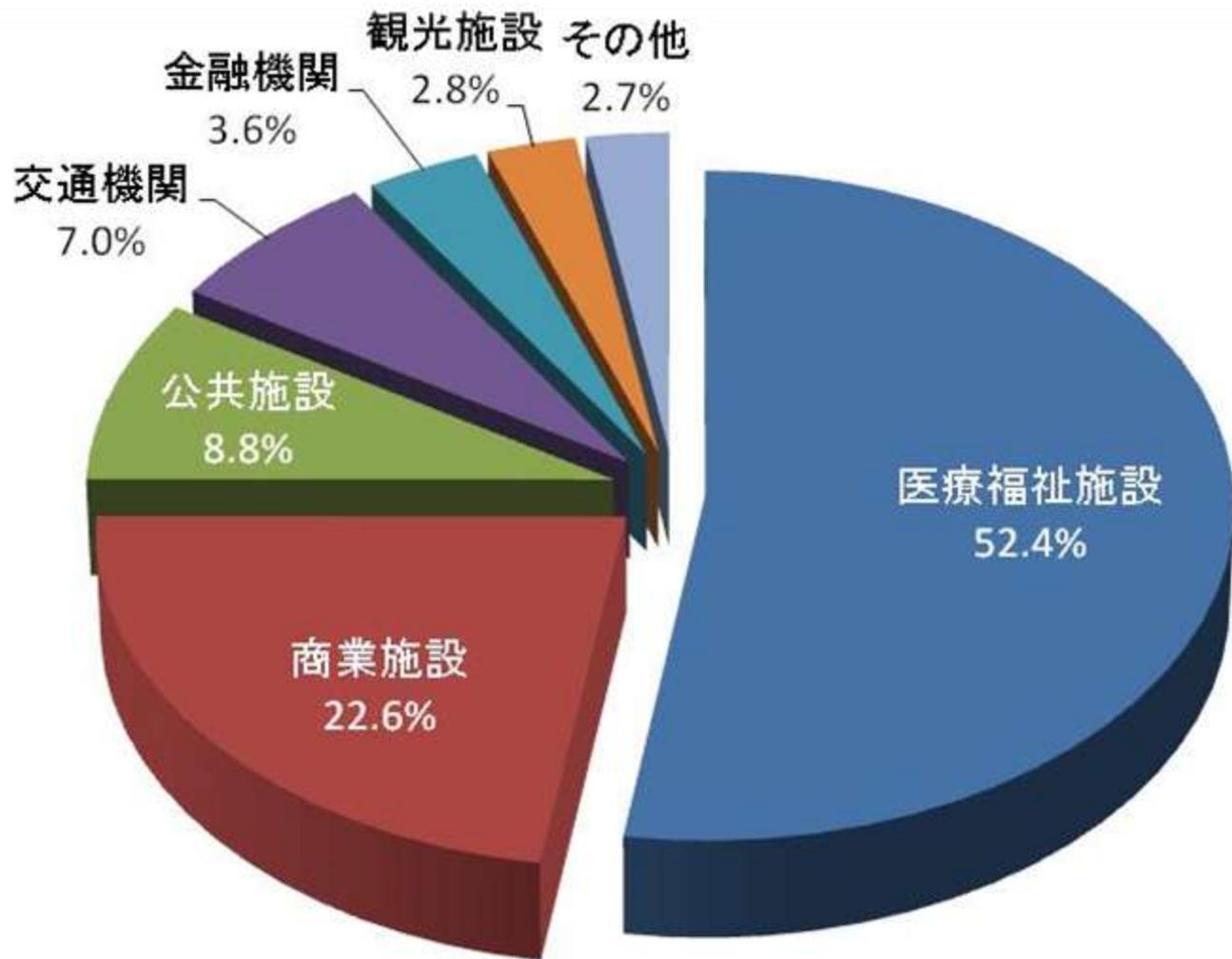
87%が70歳以上



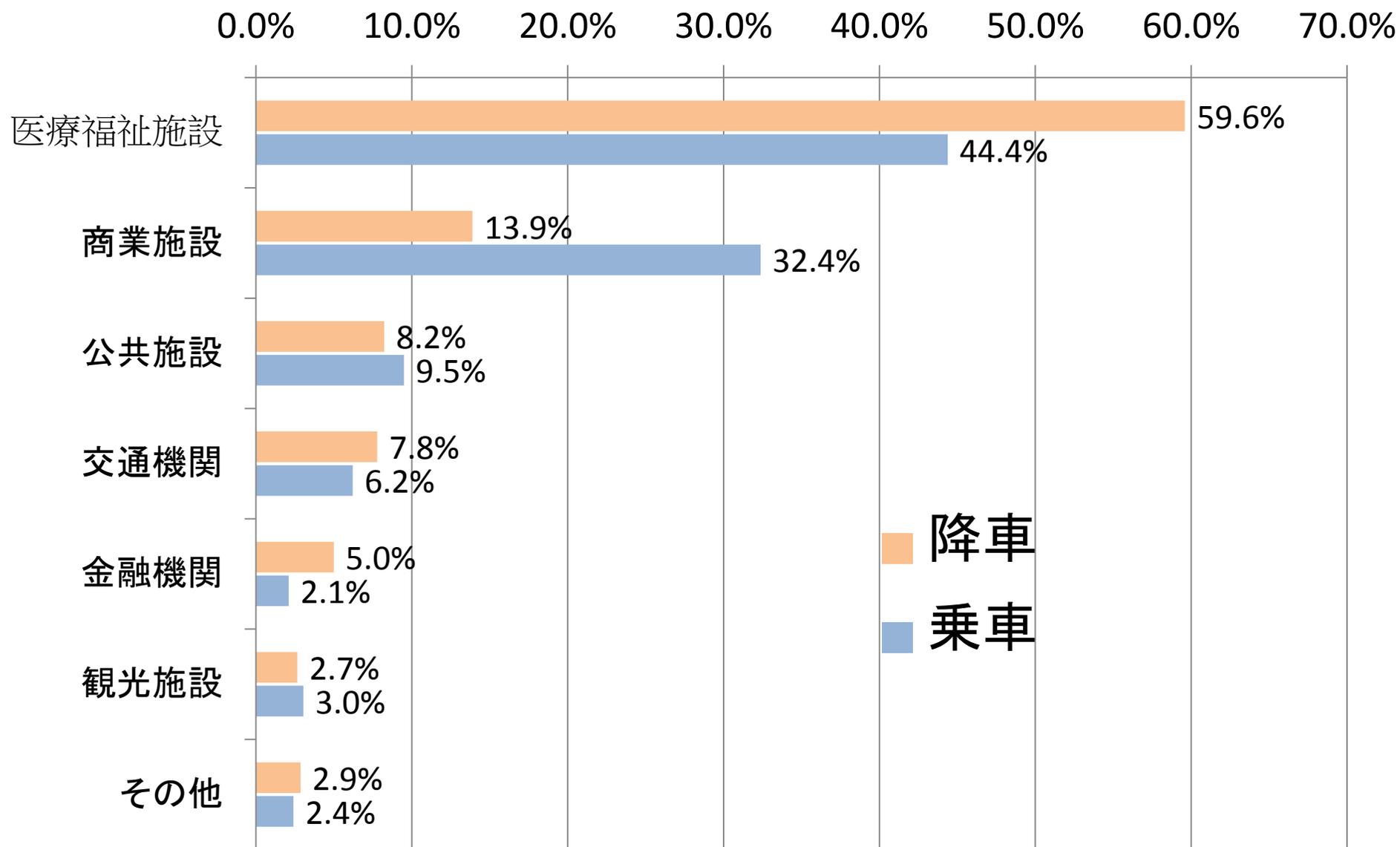
●性別



■ 乗降場所



■ 乗る場所、降りる場所で見えてみると



■アンケートで「市民の支持」を確信

《利用者向けアンケート》 ※利用経験者400人へ郵送 285人回答（回収率71%）

- 問1 予約受付時間 78%の方が「納得」
- 問2 運転日 51%の方が「困っていない」、38%の方が「困っている」
- 問3 便数 75%の方が「ちょうど良い」
- 問4 始発時間 85%の方が「ちょうど良い」
- 問5 昼休み 73%の方が「正午のままでいい」
- 問6 最終便の時間 52%の方が「ちょうどよい」、39%の方が「早すぎる」
- 問7 利用料金 89%の方が「納得」
- 問8 移動できる範囲 77%の方が「困っていない」
- 問9 目的地までの時間 83%の方が「困っていない」
- 問10 バスとの乗り継ぎ 64%の方が「支障がない」
- 問11 車両の乗り降り 93%の方が「満足」
- 問12 運転手の対応 91%の方が「満足」
- 問13 予約センターの対応 89%の方が「満足」
- 問14 外出機会の変化 38%の方が「増えた」
- 問15 暮らしの便利さ 80%の方が「便利になった」
- 問16 乗合タクシーの必要性 94%の方が「必要」

《未利用者向けアンケート》 ※未利用者100人へ郵送 57人回答（回収率57%）

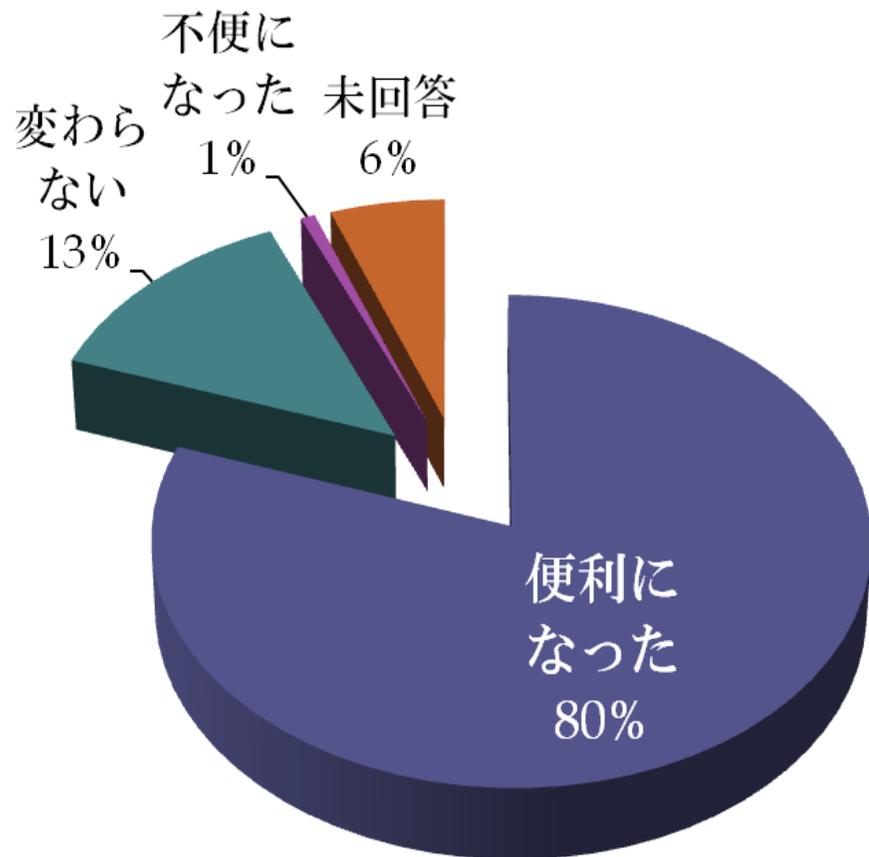
- 問1 利用していない理由 58%の方が「自分で運転」、39%の方が「家族が送迎」
- 問2 今後の利用予定 72%の方が「今後利用する」
- 問3 乗合タクシーの必要性 87%の方が「必要」

（アンケート実施時期 H23年8月）

■ 「暮らしが便利に」 8割が実感

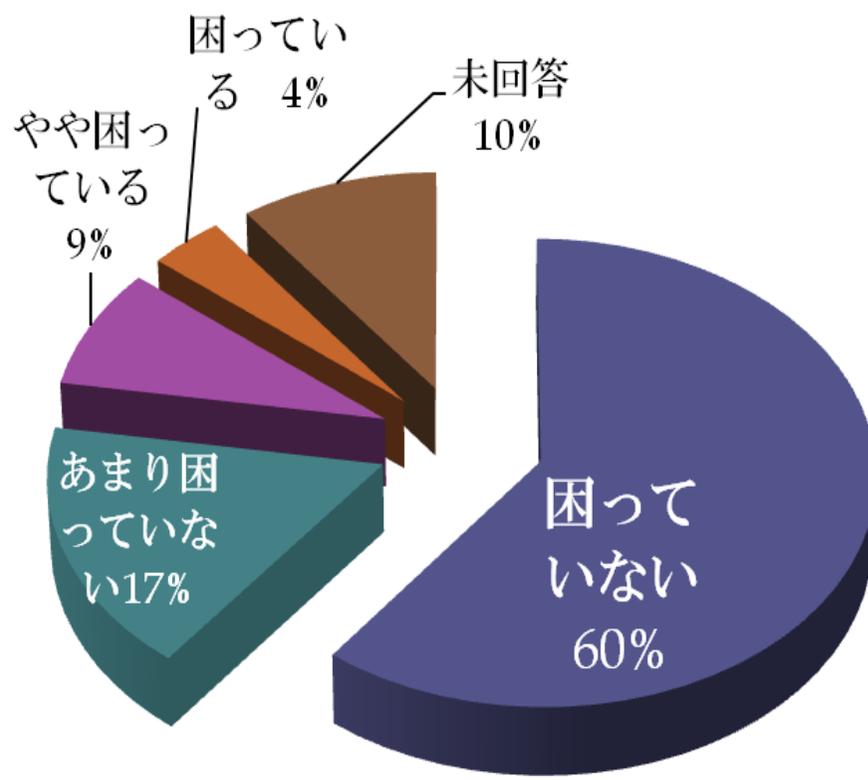
《問15》 乗合タクシーの便利さについてお尋ねします。

乗合タクシーが出来て、毎日の暮らしが、便利になったとお感じですか。



《問8》 移動できる範囲についてお尋ねします。

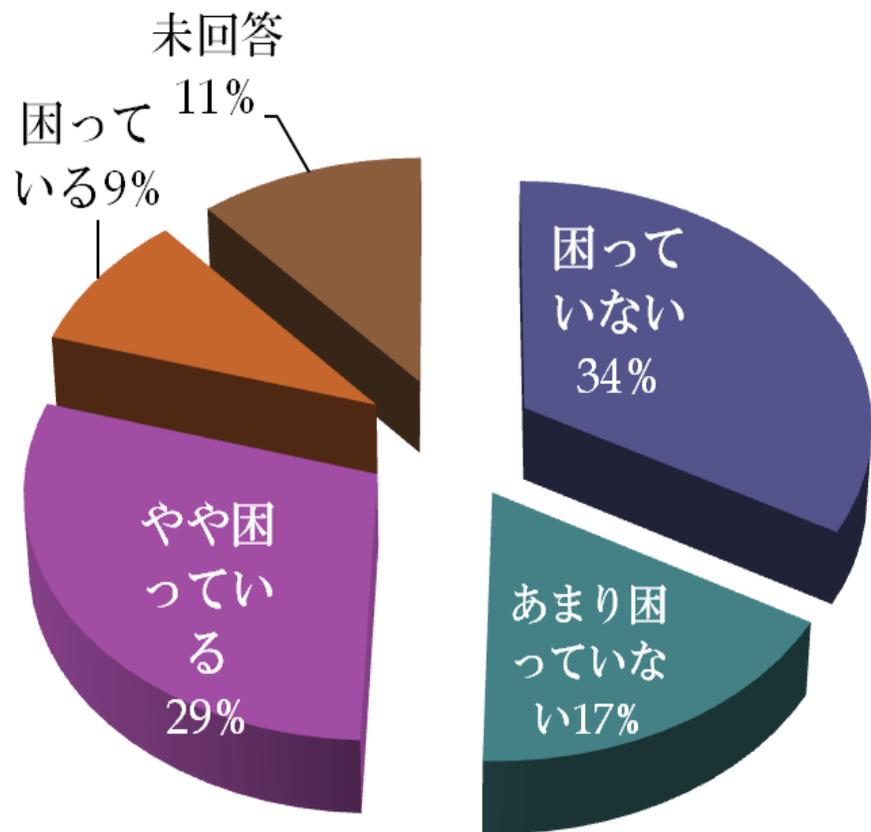
原則として、同じエリア内での利用とさせていただきますが、日常生活にお困りはありますか。



■ 運行日や最終便の時間に不満も

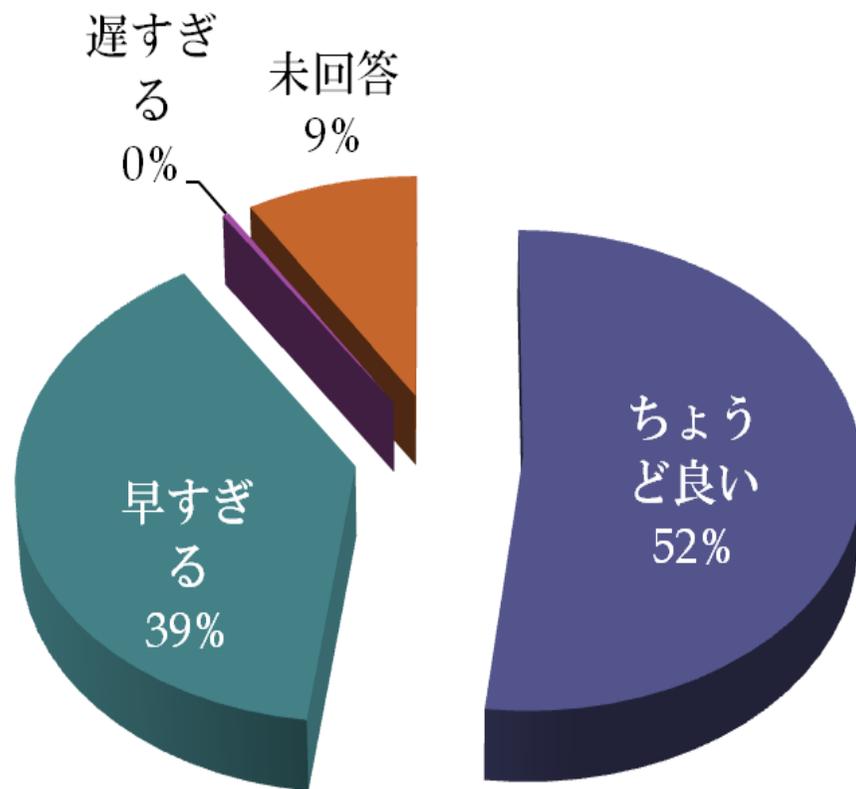
《問2》 運行日についてお尋ねします。

現在、平日のみ運行し、土日、祝日、年末年始は運休していますが、日常生活にお困りはありませんか。



《問6》 最終便の時間についてお尋ねします。

現在、夕方4時が最終便となっています。



■ 当面する課題の解決に向けて

◆ 当面する課題

- 運行経費の抑制
- 安全運行の確保
- 乗合タクシーとその他の公共交通との共存

◆ 解決への糸口

- 新システム導入
 - オペレータの負担軽減で人件費削減
 - 時間が見える配車システムで無理な配車を予防
- エリアごとの運行ルール(市街地と山間部)
- 地域公共交通協議会での幅広い意見交換

■ 新たな利活用の模索

- 観光デマンド

八女市の観光イベント時に市内循環運行

※H23年度事業で実証運行

※H24年度～観光費で予算化して継続

- 商工会による地域活性化への活用

※H24～26年度事業 計画策定と実証

①買物ポイントによるタクシーチケット

②車内広告 ③宅配サービス ④安否確認

⑤待合所設置(空き店舗活用)など

九州北部豪雨の災害後も、休まず運行しました。

▶運行時刻表

■平日運行時刻表
発車時 前日19時30分
9時 8時30分
10時 9時30分
11時 10時30分
12時 11時30分
13時 12時30分
14時 13時30分
15時 14時30分
16時 15時30分

※平日、夜日および年末年始（12月31日～1月3日）は運行しません。

「ふる里タクシー」のご案内

九州北部豪雨の災害後も、休まず運行し続けています。被災された方には、お見舞い申し上げます。また、被災された方への支援活動にも積極的に参加し、被災地の復興に貢献してまいります。

この「ふる里タクシー」は、九州北部豪雨の災害後も、休まず運行し続けています。被災された方には、お見舞い申し上げます。また、被災された方への支援活動にも積極的に参加し、被災地の復興に貢献してまいります。

この「ふる里タクシー」は、九州北部豪雨の災害後も、休まず運行し続けています。被災された方には、お見舞い申し上げます。また、被災された方への支援活動にも積極的に参加し、被災地の復興に貢献してまいります。

八女市予約型乗合タクシー
「ふる里タクシー」
災害後も休むことなく運行！

愛されて
10万人突破！



「大きな災害で、生活が停滞しています。八女市への復興に、ふる里タクシーが大きな役割を果たしています。被災された方には、お見舞い申し上げます。また、被災された方への支援活動にも積極的に参加し、被災地の復興に貢献してまいります。」

八女市への復興に、ふる里タクシーが大きな役割を果たしています。被災された方には、お見舞い申し上げます。また、被災された方への支援活動にも積極的に参加し、被災地の復興に貢献してまいります。」

九州北部豪雨災害後も「ふる里タクシー」は休むことなく運行し続けています。

「利用者の皆さんの安心と生活支援がとてもの励みでした。」

「夫婦で利用していますが、安心して暮らせる地域交通の主役です。」

「ふる里タクシー」利用者の皆さんの声です。



九州北部豪雨の災害後も、 休まず運行しました。

「大災害で途中の道が寸断された中、迂回しての送迎に感謝しています」

楠 アサ子さん
(古敷岩屋)



黒木

一人暮らしで、黒木町中心部の病院や買い物によく利用しています。娘たちも遠くに嫁ぎ、用事を頻繁に頼めないで、ふる里タクシーは私の生活の支えになっています。今回の大災害で、途中の国道が通れず困っていた時も、迂回路を2時間かけて送迎していただきました。この山奥では、ふる里タクシーがなかったら生活ができなため、本当に感謝しています。

九州北部豪雨災害後も「ふる里タクシー」は休むことなく運行しました。

「利用者の皆さんの安否と生活支援がとても心配でした」



諫山高吉さん
(星野エリア
10号車運転手)

八女の病院への通院に、バス停まで妻といっしょによく利用しています。電話予約は、予約センターの対応が親切なので、いつも私が担当しています。

今回の集中豪雨で星野村が孤立状態になったときは、息子の運転で八女の病院まで2～3時間かけて、やっとの思いで行きました。しかし、仕事のある息子にはそう頻繁には頼めないと困っていたところ、ふる里タクシーの運転手さんから「運行している」といううれしい連絡があり、早速、診療所まで利用しました。非常時にも、柔軟な運行ができるこのふる里タクシーが、いつまでも続くことを祈っています。



黒谷典正さん・キリエさん
(板屋)

「夫婦で利用していますが、安心して暮らせる地域交通の主役です」

災害後、自宅から孤立状態の星野村へ、うきは市経由で3時間かけてやっとの思いでたどりつきました。目を覆うばかりの大惨事に、まず利用者の皆さんの安否と生活支援のため、四輪駆動車で家を回り、走行ルートの確認など、車庫に泊まりこんで対応しました。

この非常事態だからこそ、いつも利用してもらう利用者の皆さんの行動パターンを大事にしながら、ふる里タクシーにしかできない支援を肝に銘じ、毎日奔走しています。

■おばあちゃんたちの笑顔最高



ご清聴ありがとうございます

八女市総務部地域支援課交通対策係

〒834-8585 福岡県八女市本町647

TEL0943-23-1224 FAX23-2583



長年暮らしの家を離れるのは苦痛しい。距離も狭くなくとも、病院や商店、学校は歩いて行ける距離になった。この間に近くも近くして便利やんね。何より、孫の赤ちゃんが楽しそうやけん良かったよ。八女市星野村の中心地にある市営団地で、赤尾春枝さん(72)は目を下けた。

「古居で暮らしていたころ、百穂さんはクールバスで団地に通った。通勤時間は古津(時間外)、朝早くのも大変だったが、放課後はバスの時間に合わせて、バス停の椅子を並べた。バス停の椅子が並べられて、歩いていけるようになった。赤尾さんと話を聞くと、休日の子供も遊びに来るの参加も嬉しい。友だちと遊ぶのも、自転車に乗って公園に行ける距離にはなりました。」

赤尾 春枝さん(72) 八女市星野村



一緒に暮らす孫の百穂さん(右)と笑顔を見せる赤尾春枝さん。

「春枝さん、お久しぶりです。お元気ですか?」
「はい、元気です。孫の百穂さんが来たのは、何月も前でした。それで、古居を離れるのは苦痛しい。距離も狭くなくとも、病院や商店、学校は歩いて行ける距離になった。この間に近くも近くして便利やんね。何より、孫の赤ちゃんが楽しそうやけん良かったよ。八女市星野村の中心地にある市営団地で、赤尾春枝さん(72)は目を下けた。2010年10月、車で30分も離れた星野村の古居集

2人で歩むための選択

「新しいななとて、10軒ぐらいの団地が建ったよ。おれも住む予定です。そのおれが、ここに居る予定です。」

「おれも住む予定です。10月、新しい団地が完成した。団地の間を建つように、おれも住む予定です。おれも住む予定です。」



古居集落の市道に立つ宮原政徳さん。奥には稲田が赤なる

宮原 政徳さん(77) 八女市星野村



「おれも住む予定です。10月、新しい団地が完成した。団地の間を建つように、おれも住む予定です。おれも住む予定です。」

「おれも住む予定です。10月、新しい団地が完成した。団地の間を建つように、おれも住む予定です。おれも住む予定です。」

「おれも住む予定です。10月、新しい団地が完成した。団地の間を建つように、おれも住む予定です。おれも住む予定です。」

過疎進む集落守りたい

「おれも住む予定です。10月、新しい団地が完成した。団地の間を建つように、おれも住む予定です。おれも住む予定です。」



八女市野村の中心地にある小さな店、前田麻樹さんの「ふる里タクシ」が止まると、70、80代のお客さん4、5人が次々に降り立った。

商売だけで割り切れん

前田麻樹さん (71) 美苗さん (61) 八女市野村



お客さんと談笑する前田麻樹さん (右から2人目) と妻の美苗さん (右端)

「あの日も同じだった。昨年7月16日、九州北部豪雨で店が破壊された。村は一時的孤立し、水道と電気がストップした。この状態がいまも続くから分からず、住民はきつと不安だろうと心配した。小学校の体育館が避難所だったが、その日の午後には話を聞いた。市内には人が溢れ込んでいたが、カップラーメンや缶詰、飲料水を買いたい求めている人が溢れかかった。自宅の片付けは後回し。店の裏にある井戸水を無料で開放した。1週間後には心算もたに扱われた。それでも店は休業が毎日開けた。『何かしてやらにゃいかん。その気持ちみんな一精』できるもんが、できることある。それが、野村の良かよ。夫婦は顔を合わせて笑った。



「あー、おばあちゃん、おままだよな」と。八女市野村のアパートの二階、野田フミ子さんの部屋。野田フミ子さん(88)は孫娘の美苗ちゃん(61)に顔を近づけ、優しく語りかけた。

奥八女から

「俺の子どもも入居したけん、移しなごらあんなとあまれる次回をまきに「あんたは、うらなはあちゃんよ、わかるとは精始、目尻が下がりおなした。

野田 フミ子さん (88) 八女市上揚町

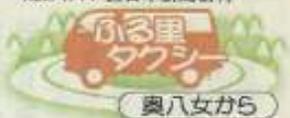


孫娘にミルクを与え、頬を緩める野田フミ子さん

「あの日も同じだった。昨年7月16日、九州北部豪雨で店が破壊された。村は一時的孤立し、水道と電気がストップした。この状態がいまも続くから分からず、住民はきつと不安だろうと心配した。小学校の体育館が避難所だったが、その日の午後には話を聞いた。市内には人が溢れ込んでいたが、カップラーメンや缶詰、飲料水を買いたい求めている人が溢れかかった。自宅の片付けは後回し。店の裏にある井戸水を無料で開放した。1週間後には心算もたに扱われた。それでも店は休業が毎日開けた。『何かしてやらにゃいかん。その気持ちみんな一精』できるもんが、できることある。それが、野村の良かよ。夫婦は顔を合わせて笑った。

二つの命に会いたくて

「あの日も同じだった。昨年7月16日、九州北部豪雨で店が破壊された。村は一時的孤立し、水道と電気がストップした。この状態がいまも続くから分からず、住民はきつと不安だろうと心配した。小学校の体育館が避難所だったが、その日の午後には話を聞いた。市内には人が溢れ込んでいたが、カップラーメンや缶詰、飲料水を買いたい求めている人が溢れかかった。自宅の片付けは後回し。店の裏にある井戸水を無料で開放した。1週間後には心算もたに扱われた。それでも店は休業が毎日開けた。『何かしてやらにゃいかん。その気持ちみんな一精』できるもんが、できることある。それが、野村の良かよ。夫婦は顔を合わせて笑った。



奥八女から

「田舎が壊れても良い物が大事でも、それでも生きていく」。八女市で行われる新しい形の「ふる里タクシ」は、山間部で暮らす人々の思いを支え、くまもと山道を走る「ふる里」を走り続けている。筑後地方を襲った九州北部豪雨から1日5年。被災地の「ふる里」を壊らぬと、八女市黒木町と黒野村とでふる里タクシに乗り込んだ。車窓から見たのは、崩れたままの山や土砂に覆われた田畑。けれど車内は、しっかりと前を向く人々の笑い声にあふれ、支えあふ絆が息づいていた。

(清水恵美子、小島紀子)



①豪雨で崩壊した田舎路を走るふる里タクシ
②ふる里タクシの車内はお客さんの笑い声が絶えない

女え合らう絆さらに

「おせっかい」が見守りに

豪雨から半年

山崩がえぐれ、岩浜木が散らばる土砂の上に、轟然しい一本の道が延びる。「この道が通って本当に便利のよくなった」。ふる里タクシの車内では、乗り合わせた6人がうなずきあっていた。

八女市黒木町の隣接地区。昨年7月14日の豪雨の後、通行止めが続いていた町中心部につながる県道は、先日28日に復旧した。この半年、住民は車1台がやっと通れるような急勾配の道なき道(向乗女性)を、通常の罰を占める。その多くが

約3倍の時間をかけて往復していた。ただ、その先は依然通行止め。タクシの予約センターは「この冬、朝一番の午前8時頃の運行を、町の一帯地域にしている。夜中には迂回路が確保される恐れがあり、遅くは行けない地区が出るからだ。」「道が完全に

つながらんと、病廃にも行けんことなる」。同乗の男性(80)が嘆いた。日中、道を取り戻すには、まだ道のりは遠い。

* * *
ふる里タクシの利用者は、市全域で1日平均2500人。70代以上が8割を占める。その多くが

車の運転免許を持たないのオベーターは、利用した瞬間には、命を運ぶ責を負った。同乗の女性(80)は、車内では、命を運ぶ責を負った。同乗の女性(80)は、車内では、命を運ぶ責を負った。同乗の女性(80)は、車内では、命を運ぶ責を負った。

「隣のばあちゃん、頭に入れて」。水害後は、その言葉が響いた。午後、乗客が1人、タクシーを降りた。「今んが、おせっかいが相方の見守りに役立っている。車内で待たずに、元気に帰る。」「おせっかいが相方の見守りに役立っている。車内で待たずに、元気に帰る。」「おせっかいが相方の見守りに役立っている。車内で待たずに、元気に帰る。」

「いつもこの時間に登校」。それが車内で、待合所を過ぎ、再び結を乗り、市の中心部に。取材を通して感じたのは、ふる里タクシが単なる「交通弱者の足」ではない。田舎特有の「おせっかい」が、おせっかいが相方の見守りに役立っている。車内で待たずに、元気に帰る。」「おせっかいが相方の見守りに役立っている。車内で待たずに、元気に帰る。」

「おせっかいが相方の見守りに役立っている。車内で待たずに、元気に帰る。」「おせっかいが相方の見守りに役立っている。車内で待たずに、元気に帰る。」

「おせっかいが相方の見守りに役立っている。車内で待たずに、元気に帰る。」「おせっかいが相方の見守りに役立っている。車内で待たずに、元気に帰る。」

希望運ぶタクシー

被災で過疎化客減っても…

九州北部豪雨で1年前の14日、濃霧が寸断され滅
立した福岡県八女市野村、山あいの集落を襲ったよ
うに、市が運行する乗り合いのふるまタクシーが
駆け巡る。運転手の鎌山高志(56)はこの1年の
変化を感じ取っていた。豪雨災害を心配する親族の
勧めで、高志の常連客が次々に山を下りたため、災害
が過疎化をさらに進めるとも、それでも、鎌山さんは
「残ったあちゃんのために」に奮起する。

八女市星野村



車道から自宅まで、利用者の高齢者も増加している
鎌山高志さん(右)。――福岡県八女市野村

「残るばあちゃんたちのため」

夏祭の下、棚田と茶畑が人の連絡が途絶えた。仕事
広がる星野村、緑豊かな山の合間に様子を見守った
間には今も雨粒を降らす青90代の女性宅には、人の気
いシートが広がっている。「調べるよ」
「調れども急に大雨 家族の勧めでクルマがホ
になるかもしねんけん、運
運の準備はじかぬよ」
鎌山さんは濃霧が明けて
からも、1人暮らしの常連
客を降らす際は、その念を
押す。



昨年(2014年)の豪雨日、客の安
否を確認しようと、八女市
中心部の自宅から行へ入っ
た10分間の過疎地を走り、
4時間かけてたどり着き、
5日間、車に籠もりしな
がら助け回った。常連の女
性が命を落としたことを知
ったショックは、今でも忘
れられない。
タクシイの客は70、80
代、「いつか何があってもお
かしくない」。鎌山さん
は100人近い常連客が同
時に通う程度で、親戚がど
こにいたかの状況を把握
し、しばしば利用がない
と懸念どけしよつと」と
と電話をかける。
被災後、常連のつち敷
地区の減少は被災の影響と

ふも星野村、福岡県
八女市が市内で運行する予
約型の乗り合いタクシー。
試験運行を経て、2010
年10月から正式運行に拡大し
た。指定区域内であれば時
一料金(200円)一部40
0円で自由に乗降り得る。
また、6月現在で、1カ所
68人が利用登録して
いる。

「豪雨を思い出すと二
た、一歩を思い出すと二
人であるのが怖い」。そんな
な環境で山を下り、家族と
暮らし決断をした人もい
る。走り慣れた山道は、
みられるという。
星野村で運行するタク
シイを利用する利用者は
さん(81)も、野村で暮らす
長男(40)も、同村を勧められ
た。しかし、避難準備を思
らないことを条件に、一歩
進んで星野の申し出を断り
たという。「タクシーは日
分の早業れおちば、山
を下りた」
そんな話を聞いた時、鎌
山さんはたましく生きる
「あちゃんたちが住み
慣れた家、暮らす支えにな
らうと気が引き締まる。交
通弱者の足として、もし
て、命を助ける口として、
「残るばあちゃんのため」

(熊本県鹿子)

取組み(功績)の概要 『乗合タクシーを導入して交通空白地域を解消し、同じ経費で市民生活の質向上を実現』

- 既存の路線バス、患者輸送車、福祉バス等の見直しや、乗合タクシーの導入で、地域の公共交通を抜本的に再編した。
- 地域間の移動は路線バス、地域内の移動は乗合タクシーと役割分担し、交通空白地域を解消した。
- 市町村合併前の各市町村の交通対策予算と同等の額で、高水準の交通施策を実現し、飛躍的な効果を上げた。
- アンケートや広報取材等で、市民が生活の質の向上を実感していることが明らかになった。

○事業内容

1. デマンド型乗合タクシーの運行

・市内に点在する交通空白地域の解消に向けデマンド型の乗合タクシーを導入。



2. 幹線路線バスを維持し地域間移動を確保

- ・幹線路線バスは確保維持し、支線は朝夕の通勤通学用にダイヤ改正。
- ・旧市町村を越える移動は幹線路線バスを利用。

3. 導入前と同等程度の経費で飛躍的な成果

・合併前の市町村が協議して地域の公共交通連携計画を策定。別々の交通政策を再編統一することで、同じ経費で飛躍的な効果を上げること成功した。

4. 市民が生活の質の向上を実感

- ・平成23年8月の市民アンケートで、利用者の80%が「暮らしが便利になった」、38%が「外出機会が増えた」と回答。市民に交通空白解消と生活の質の向上を実感していただいた。
- ・平成24年7月の九州北部豪雨で幹線道路が寸断され、路線バスが運休した時も、乗合タクシーは1日も休まず運行し、災害にも強く市民生活の安心安全を支える乗り物としても高評価を得ている。



広報やめH23.10月号

広報やめH24.9月号



平成25年 地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰 平成25年9月18日

表彰状

八女市地域公共交通協議会 殿

貴協議会公共交通体系の再編を図り路線バスと
予約型乗合タクシーの連携によって
交通空白地域を解消するとともに導入前と
同程度の経費で市民生活の質の向上を
実現するなど地域公共交通の確保・
維持に積極的に取り組まれました
その功績はまことに顕著であり
よってこれを表彰します

平成二十五年 九月十八日

国土交通大臣 太田昭宏



賞

地域公共交通振興団体国土交通大臣表彰

八女市地域公共交通協議会 殿

平成25年9月18日

国土交通大臣

太田昭宏

